

II-89 治水地形と風景

（株）建設技術研究所 正会員 千田庸哉
建設省土木研究所 正会員 清水 裕
建設省土木研究所 正会員 島谷幸宏

1. はじめに

河川景観の管理、あるいは整備を行う際には、現状の景観をしっかりと把握することが基本となる。景観把握調査法には、対象の姿を人間側から直接捉える方法¹⁾と、まず対象側を捉え、それを人間に問いかけることによって明らかにする方法とがある。

河川景観の管理・整備手法を検討するためには、河川を人々がどう感じ取るか、それがどうしたら良くなるかを明らかにすることが必要である。そのためには、現地に近い再現性を持って河川の風景を把握することと現地で捉えた風景を多くの人に呈示すること、つまり後者の立場が重要となる。

本報では客観的に河川の風景を捉えるという観点から、まず河川景観の成り立ちを明らかにし、阿賀野川の景観調査から治水地形と風景の関係を抜き出して、河川景観の基礎調査の必要性を示した。

2. 河川景観の成り立ち

河川は本来、雨水や土砂を流す流路であり、侵食・運搬・堆積の営みは地表における河川自身の姿を変え、人間社会に大きな影響を与え続けた。現在ある河川の姿は、河川の自然史と人間が河川に働きかけた歴史との具体的現われといえる。これが河川景観の視覚的刺激の元であり、これを人がどう感じるかによって名所ができたり、人の行動・印象に結び付く。

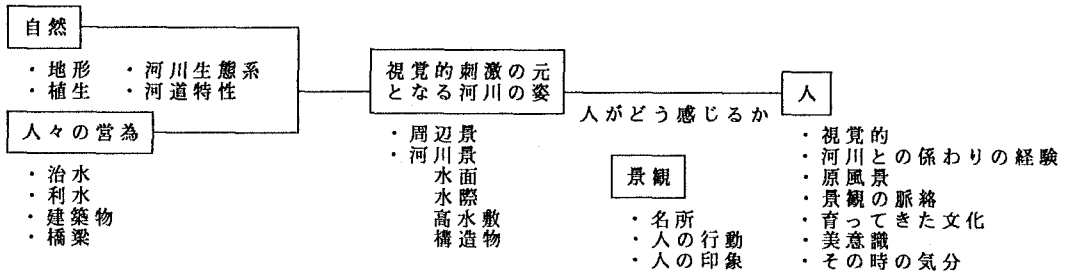


図-1 河川景観の成り立ち

3. 治水地形と風景

河川の風景は周辺景と河川景に分けられる。周辺景において川からよく見えるのは高い所や緑の多い所、山並みなどであり、河川景では水面、曲がり、水際、高水敷の状況などが主体となる。これらは過去の洪水の氾濫状態と密接な関係にある。例えば微高地の自然堤防上には宅地や畑が存在し、特に高い所は神社に

表-1 地形と風景

区 分		風 景 の 特 徴	地 形
周 辺 景	遠 景	山並み	山地、丘陵
	中・近 景	高い所、緑の多い所	台地、段丘、砂丘、自然堤防
河 川 景		山地部を流下	山地
		川幅広く、滞筋、複列、砂礫	扇状地
		曲がり多し、交互砂州発達	中間地
		感潮域、広く穏やかな水面	三角州
		海に接する	河口

なり森となっている場合が多い。また、河川景においても治水地形区分にほぼ対応した河道特性が景観の印象に重要な役割を果たしており、治水地形を把握することは景観対象の把握につながる。

4. 阿賀野川の風景

表－2は阿賀野川の景観調査によって把握した主な景観対象を示したものであり、位置特性や治水地形特性などの基礎調査から阿賀野川の景観対象やその見え方が、ある程度決められることが明らかになった。山並みが鮮やかに見えるのは水蒸気の少ない晴れた日（秋～冬）で、午前中は右岸側、午後は左岸側からの方が鮮やかである。また、河道の曲がりや奥行きのある風景を眺められるのは中間地の水衝部であり、五頭連峰を飯豊山地を正面に見るのなら左岸側からが良い、などがその例である。

表－2 阿賀野川の主な景観対象（0～3.4km）

主な対象 区分	周 辺 景				河 川 景				備 考
	遠 景		中・近景		水 面	水 際	高 水 敷	構 造 物	
山間地河川 32km付近	右岸	左岸	右岸 ↑ 五頭連峰	左岸 ↑ 著名連峰	狭い、動的 流れ早し	岩	狭い	原首工 構築	ライン下り 八景2
扇状地河川 22km付近	↑ 五頭連峰	↑ 飯豊山地	↑ 越前名山連峰	↑ 自然堤防 (湾曲)	瀬 渚 復列	砂礫 高木	↑ 広い 河原 畑	橋梁 床固め	砂利船 アユ釣り 八景1
中間地河川 10km付近	↑ 飯豊山地	↓ 新津丘陵	↑ (放射状) 自然堤防 (河川沿い)	↑ 自然堤防 (河川沿い)	曲がり 水衝部 と砂州	砂 高木	耕地 ↓ 柳群落 広い	水門 床固め 構築 水制	白鳥 砂利船 八景4
三角洲河川 2km付近			↑ 高森の 砂丘		広大 穏やか	ヨシ原 低木	公園 耕地	橋梁 水制	高森の大けやき サケ漁 八景1
河口 0km	↓	↓ 佐渡	↑ 松浜 砂丘	↑ 空港	海 ↓ 広い、静的	ヨシ原 ↓ シルト	↓ 狭い	橋梁 進入灯	諏訪神社 サケ漁

5. おわりに

以上のように現在の姿を理解する上で、また今後の河川景観管理の前提条件を把握する上で、各河川における河川景観の基本条件を調査することは極めて重要であるといえる。今後は河川風景を現地に近い再現性を持って表現すること、並びにその評価・管理方法が課題である。

参考文献

- 1) K. リンチ、丹下、宮田訳：都市のイメージ、岩波書店、1968
- 2) 島谷幸宏、千田庸哉：河川環境講座（その4）－河川景観管理－、土木技術資料、1990
- 3) 大矢雅彦編：地形分類の手法と展開、1983
- 4) 建設省阿賀野川工事事務所：阿賀野川水害地形分類図、1985